



2026年3月期

決算説明会

2026年5月21日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード：6298 東証プライム)

<https://www.yac.co.jp>

▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

この報告資料に記載された当社の将来の見通しは、現時点で利用可能な情報に基づいています。しかし、以下の要因により、実際の売上高および利益は予測値と大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。

- 当社の主な顧客である半導体業界などは、技術革新が急速に進み、競争が激しい市場です。
- 世界経済、為替レートの変動、業界の市況や設備投資の動向といった外部要因が、当社の業績に直接的または間接的に影響を及ぼす可能性があります。

概要

- | | | |
|----------------------|---------------------|--------------|
| 1. ご挨拶 | 代表取締役社長 | 百瀬 武文 |
| 2. 2026年3月期通期連結決算総括 | 取締役常務執行役員 | 畠山 督 |
| 3. 各関連事業の通期実績と今期の見通し | | |
| -①半導体・メカトロニクス関連事業 | 取締役副社長 | 伊藤 利彦 |
| -②環境・社会インフラ関連事業 | 取締役専務執行役員 | 大倉 章裕 |
| -③医療・ヘルスケア関連事業 | | |
| | ワイエイシイバイオ（株）代表取締役社長 | 関口 孝 |
| 4. ワイエイシイグループの展望 | 代表取締役社長 | 百瀬 武文 |
| 5. Q&A | | |

1. ご挨拶

ワイエイシーホールディングス株式会社

代表取締役社長 **百瀬 武文**

2. 2026年3月期通期決算総括

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役常務執行役員 **富山 督**

1. 全体総括

【収支面】

増収に伴う粗利増に加え、「営業外損益及び特別損益の好転」により、ボトムである当期利益は、13億円と前期比倍増。

【財政面】

資産増（固定資産）及び負債増（借入金）の両建計上により、総資産は27億円増の437億円。

2. 収支状況（各段階利益）

【粗利益】

粗利額の増加は、増収効果が太宗を占める形に。

【営業利益】

2025年1月にグループ入りした子会社経費の通期負担もあり、営業利益は微減に。

【経常利益】

営業外収支の好転（貸倒損失の解消、為替差損益の改善等）により、増益に転じる。

【当期利益】

更に、特別利益、就中、負ののれん寄与もあり、当期利益は倍増。（559M⇒1,326M）

3. 財政状態

【総括】

将来の為の成長投資（固定資産取得）を積極的に実行。結果、総資産は6.6%の増加に。

【キャッシュフロー】

営業C／Fは引続き「運転資金要因の大幅改善」により黒字計上

4. セグメント別情報について

【収支状況】

今期は、環境・インフラセグメントが全体決算を牽引。医療・ヘルスケアセグメントも営業黒字を確保。

【受注状況について】

2026年3月期末受注状況について、前期比で受注高・受注残何れも増加。

5. 今年度事業トピックスについて

日本の電気・現場測定市場におけるトップメーカーである三和電気計器（株）の当社グループ入りを実現。

－「SANWA」は世界的ブランドとして確立済－

6. 株主還元について

自社株買いの実施〔取得金額10億円（上限）、買付株数140万株（上限）、期限2026年5月末〕
累進配当の導入（30%配当性向 → 累進配当への切替え）

7. 2027年3月期通期予想について

【通期業績予想】

売上高350億円、営業利益33億円、経常利益30億円、 当期利益20億円

【通期配当予想】

年間45円配当（中間22円/期末23円）と前期比5円増配

－予想配当性向は、40%弱（@45円/@112.66円）を予定－

(1)総括

- 増収増益：増収に加え、「一過性の特殊要因」によりボトム利益は大きく改善

$$[+905\text{M (増収)} + \blacktriangle 453\text{M (粗利率悪化)} = +452\text{M}]$$

(単位：百万円)

	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績①	2026/3期 実績②	増減額 ② - ①	増減率 同左
売上高	24,114	26,809	23,041	26,460	+3,419	+14.8%
粗利益	6,087	7,100	6,556	7,009	+452	+6.9%
同率	(25.2%)	(26.5%)	(28.5%)	(26.5%)		
営業利益	1,495	2,006	1,354	1,319	▲34	▲2.6%
同率	(6.2%)	(7.5%)	(5.9%)	(5.0%)		
経常利益	1,541	2,074	1,124	1,221	+97	+8.6%
当期純利益	921	1,417	559	1,326	+766	+137.1%

(単位：百万円)

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	22,796	24,114	26,809	23,041	26,460
粗利	6,133	6,087	7,100	6,556	7,009
同率	(26.9%)	(25.2%)	(26.5%)	(28.5%)	(26.5%)
営業利益	1,566	1,495	2,006	1,354	1,319
同率	(6.9%)	(6.2%)	(7.5%)	(5.9%)	(5.0%)
経常利益	1,491	1,541	2,074	1,124	1,221
同率	(6.5%)	(6.4%)	(7.7%)	(4.9%)	(4.6%)
当期純利益	1,107	921	1,417	559	1,326
同率	(4.9%)	(3.8%)	(5.3%)	(2.4%)	(5.0%)

- 今期は環境インフラセグメントが全体決算を牽引。医療セグメントも営業黒字を確保。

(単位：百万円)

	事業セグメント			小計	調整	合計
	半導体・メカトロニクス	医療・ヘルスケア	環境・社会インフラ			
25/3売上	9,761	5,244	8,036	23,041	—	23,041
25/3営利	1,395	346	475	2,217	▲862	1,354
26/3売上	10,493	5,508	10,459	26,460	—	26,460
26/3営利	1,435	62	721	2,218	▲899	1,319
売上増減	+731	+264	+2,422	+3,419	—	+3,419
利益増減	+39	▲284	+264	+1	▲36	▲34

(単位：百万円)

	2025/3期末 報告セグメント				2026/3期末 報告セグメント				合計 増減 金額
	半導体 メカトロ	医療 ヘルスケア	環境社会 インフラ	合計	半導体 メカトロ	医療 ヘルスケア	環境社会 インフラ	合計	
日本	7,018	4,884	6,624	18,526	7,225	4,963	7,972	20,161	1,635
中国	481	-	631	1,113	727	-	1,881	2,609	1,496
アジア 他	2,038	220	766	3,025	2,528	299	443	3,270	245
その他	222	139	13	376	11	245	161	418	42
合計	9,761	5,244	8,036	23,041	10,493	5,508	10,459	26,460	3,419

- 2026年3月期末受注状況について、前期比で受注高・受注残何れも増加

(単位：百万円)

セグメント	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期	
	受注高	受注残	受注高	受注残	受注高	受注残
半導体・メカトロ	9,228	5,461	9,529	4,733	9,696	3,936
医療・ヘルスケア	4,282	5,620	4,274	4,717	5,874	5,082
環境・社会インフラ	5,384	6,488	9,829	8,712	10,991	9,244
合計	18,895	17,570	23,643	18,163	26,562	18,264

(1) 総括：総資産（437億円）と2025/3末比：+27億円の増加

— 資産側：「ライナス社株式」及び「三和テスメックス土地」の取得 —

— 負債側：「上記取得に係る借入金の増加」 (百万円)

	2024年3期	2025年3期①	2026年3期②	増減②-①
流動資産	33,013	29,760	29,609	▲150
固定資産	10,814	11,325	14,184	+2,858
総資産 計	43,827	41,086	43,793	+2,707
流動負債	15,665	15,011	15,643	+631
固定負債	11,171	8,980	11,173	+2,193
純資産 計	16,989	17,093	16,976	▲116

➤ 総資産増加を主因として連結自己資本比率は微減

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
自己資本比率	37.5%	41.3%	41.1%	38.7%	41.1%	38.7%

➤ 営業C/Fは引続き「運転資金要因の大幅改善」により黒字計上。

CF. 24/3期：損益要因（+1,903M）+ 運転資金要因（▲1,021M）= +882M
 25/3期：損益要因（+1,024M）+ 運転資金要因（+1,646M）= +2,670M
 26/3期：損益要因（+1,203M）+ 運転資金要因（+1,867M）= +3,070M

（単位：百万円）

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
前期末現金同等物	8,619	6,552	7,558	7,094
営業活動C/F	▲1,636	+882	+2,670	+3,070
投資活動C/F	▲742	▲2,178	▲1,077	▲2,028
財務活動C/F	+272	+2,252	▲2,069	+494
為替換算	+39	+49	+72	+22
当期末現金同等物	6,552	7,558	7,094	8,653

- 今期は「売上高当期利益率（収益性）の向上」に「総資産回転率（資産効率）の改善」が相俟ってROEは「7.83%」へと大幅上昇

	2023年3期	2024年3期	2025年3期	2026年3期
売上高当期利益率①	3.820%	5.287%	2.225%	5.01%
総資産回転率②	0.622回転	0.611回転	0.561回転	0.604回転
財務レバレッジ③	2.480倍	2.665倍	2.434倍	2.586倍
ROE（①×②×③）	5.9%	8.62%	3.03%	7.83%

①売上高当期利益 = 当期利益 / 売上高

②総資産回転率 = 売上高 / 総資産

③財務レバレッジ = 総資産 / 自己資本

自己株式取得にかかる事項の決定に関するお知らせ

(1)	取得対象株式の種類	当社普通株式
(2)	取得しうる株式の総数	140万株（上限）
	発行済み株式総数（自己株を除く）に対する割合7.58%	
(3)	株式取得額の総額	10億円（上限）
(4)	取得期間	2025/11/14～2026/5/29

配当方針の変更（累進配当の導入）に関するお知らせ

(1)	変更後	事業成長のための投資や財務状況を勘案しつつ、 累進配当（※） を行う事を基本方針とします。ただし、M&A等の大きな投資機会発生の際には、この限りではありません。
(2)	変更理由	当社株式を長期的に保有いただく株主への還元姿勢を明確とする為
(3)	変更時期	2026年3月期の中間配当より適用

2026年3月期総還元性向：113.27%（配当支払総額＋自社株買総額）/当期利益

※1株当たりの配当金の前期実績に対して、配当維持又は増配を行うものです。

2027年3月期通期業績予想及び通期配当予想



➤ 2027年3月期 通期業績予想 → 増収増益を企図 (単位：百万円)

	売上	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当り 当期純利益 (円)
2026年3月期 実績	26,460	1,319	1,221	1,326	72.43
2027年3月期 予想	35,000	3,300	3,000	2,000	112.66
増減率	32.3%	50.2%	45.7%	50.8%	55.5%

➤ 2026年3月期 通期配当予想 → 1株当たり5.0円の増配を予定 (単位：円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 期末は予想	2027年3月期 予想
中間	12.5	17.5	20	22
期末	25	20	20	23
年間	37.5	37.5	40	45
配当性向	48.6%	123.4%	55.2%	39.9%

※ 2024年12月31日を基準日として1：2の株式分割を実施。分割以前の配当金を分割後の1株当り配当金に修正して表記

セグメント情報

3-① 半導体・メカトロニクス関連事業 通期実績と今期の見通し

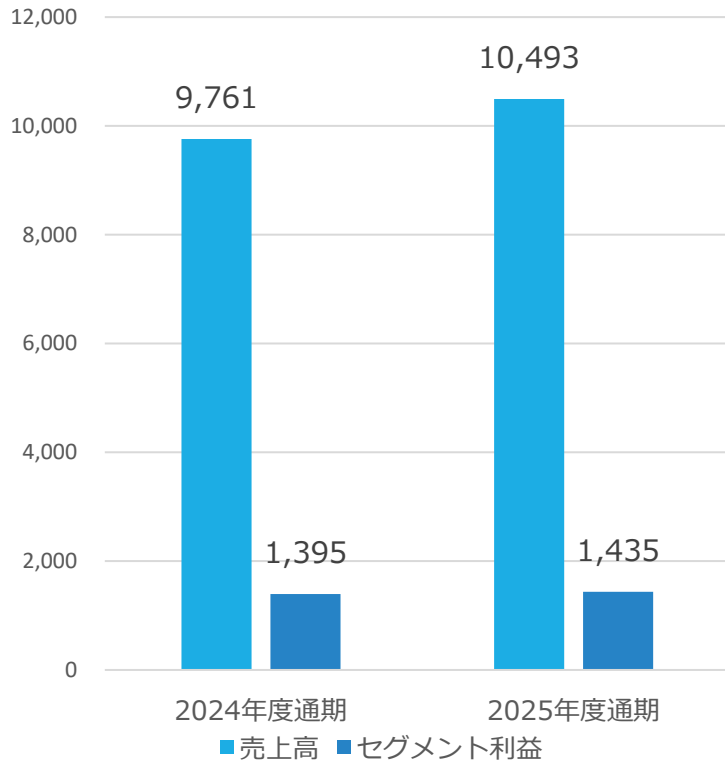
ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役副社長

伊藤 利彦

(単位：百万円)

売上高とセグメント利益



構成会社名：ワイエイシイメカトロニクス・ワイエイシイガーター・ワイエイシイビーム・ワイエイシイダスタック（以上4社）

2025年4月よりセグメント内の構成企業を一部変更しました。
2024年の数値は組み替えた形で算出しています。
半導体・メカトロニクス関連事業では、JEIおよびYACシンガポールの2社が構成から外れています。

2025年度通期実績

- ・ 前年同期比、増収増益
- ・ 半導体前工程用クリーンコンベア好調
- ・ 電子部品用テーピング装置、キャリアテープ好調
- ・ 半導体前工程用IPA乾燥機、純水加温装置好調
- ・ ハードディスク関連装置販売先送り
- ・ 中古装置、リセール販売不調

今期の見通し

- ・ 引続き、クリーンコンベア関連好調推移の予測
- ・ 引続き、IPA乾燥機、純水加温装置好調推移の予測
- ・ 引続き、テーピング装置、キャリアテープ好調推移の予測
- ・ ハードディスク関連装置販売見込み
- ・ ペロブスカイト太陽電池向け製造装置販売見込み
- ・ パワー半導体関連投資動向について、国内外注視中

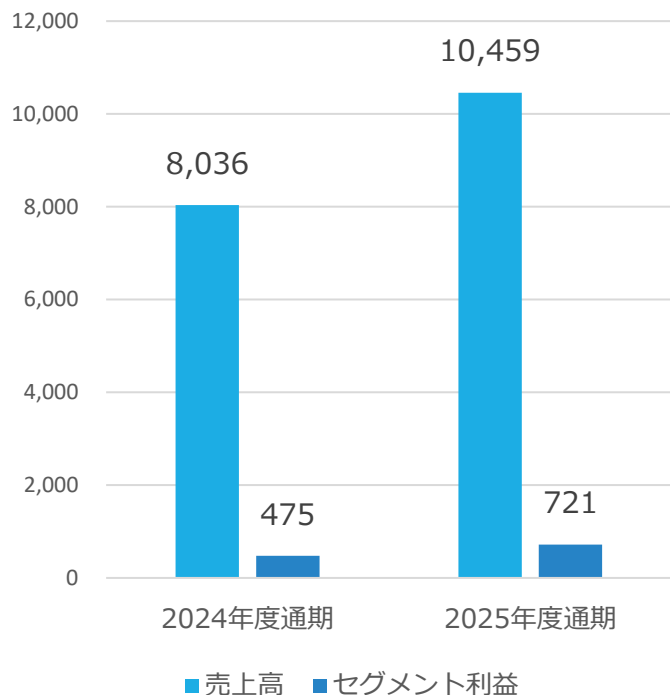
セグメント情報

3-② 環境・社会インフラ関連事業 通期実績と今期の見通し

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役専務執行役員 **大倉 章裕**

(単位：百万円) 売上高とセグメント利益



構成会社名：大倉電気・ワイエイシデンコー・ワイエイシマシナリー
ワイエイシ上海・JEインターナショナル・テクノオプティス（以上6社）

2025年4月よりセグメント内の構成企業を一部変更しました。
2024年の数値は組み替えた形で算出しています。
環境・社会インフラ関連事業では、JEI,テクノオプティスの2社が構成に
編入されています。また、2026年3月31日付で買収した三和電気計器は、
当セグメントに編入されています。

2025年度通期実績

- FPD事業および光計測装置関連事業が好調に推移
- 電力市場における再エネ、蓄電池関連の制御・通信事業拡大
- 売上高104億、前年比30.1%増
- セグメント利益7億、前年比51.9%増
- 課題：紙包装機事業立上、光学検査装置需要減少

今期の見通し

- 受注残12,452M（昨年比内示含み33.7%増）
- FPD事業、蓄電池関連制御通信事業が好調に推移。光計測安定需要
- 光学検査装置需要回復の見込
- 三和電気計器グループ入りによる、売上、利益への貢献
- セグメント相乗効果創出

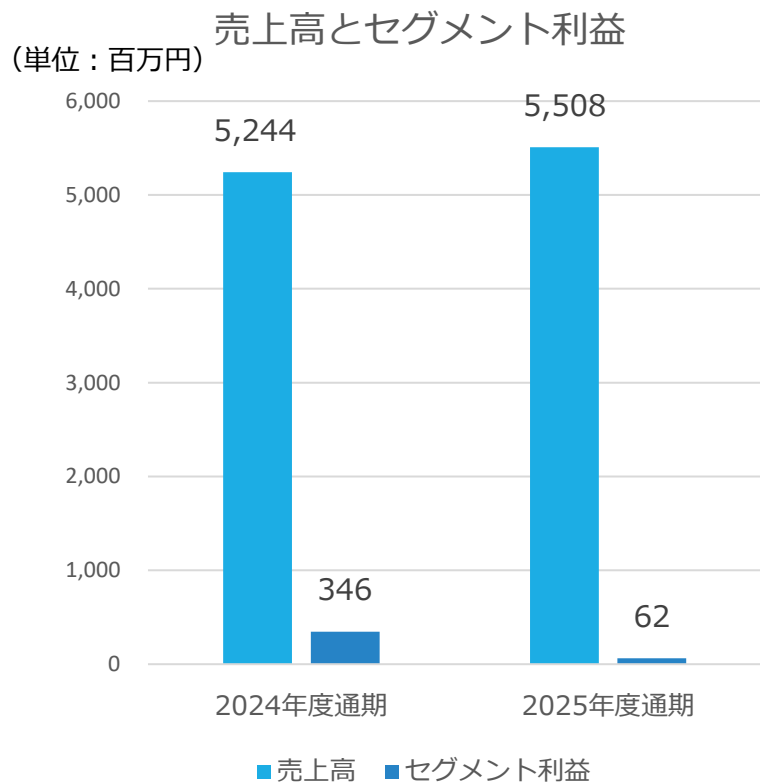
セグメント情報

- 3-③ 医療・ヘルスケア関連事業 通期実績と今期の見通し
バイオ事業の進捗について

ワイエイシイバイオ株式会社

代表取締役社長

関口 孝



構成会社名：ワイエイシイエレックス・ワイエイシイバイオ
ワイエイシイシンガポール（以上3社）

2025年4月よりセグメント内の構成企業を一部変更しました。

2024年の数値は組み替えた形で算出しています。

医療・ヘルスケア関連事業では、YACシンガポール1社が構成に編入されています。

2025年度通期実績

- ワイエイシイエレックス社による人工透析機の次世代機への生産移行を推進し、販売も堅調に推移
- 7月より毛髪を用いた自閉症スペクトラムASDの診断補助サービスを開始したほか、高感度光デジタル免疫測定装置の販売に向けた先行受注を開始。
- 原材料費の高騰や、次世代機への移行に伴う調整、及び新規事業の立ち上げおよび市場浸透に時間を要したことから、当セグメントの業績は増収減益。

今期の見通し

- ワイエイシイエレックス社による新型人工透析装置の受注が引き続き順調。
- AIデータセンター需要増によるHDD業界の活性化により、シンガポールで大口案件を受注済み。
- ワイエイシイバイオ社による毛髪事業の更なる展開や、認知症マーカー測定キットの販売等により、医療セグメントとして増収増益を計画。

LinusBioとの協業を起点に、ASD・環境曝露・ストレス領域へ展開

2025年7月



ASDスクリーニング開始

ライナス社との協業展開の中で、毛髪を用いた「自閉スペクトラム症（ASD）スクリーニングサービス」を開始。

導入検討中



環境曝露スクリーニング

ライナス社は、ASDに加え、毛髪中元素から環境曝露を評価する新サービスを開始。日本での導入検討を進める。

社会実装へ



ストレスマーカー検出

国立福島大学 平教授と共同開発。Nano-PALDI法（国内特許取得）と、ストレスマーカー物質（特願中）により、社会実装レベルへ。

今後の取り組み

ライナス社との協業の更なる展開に加え、ストレスが社会課題化する中、当社技術により社会に貢献できる新たな取り組みを開始予定。既に複数企業および研究機関との議論を開始。

ものづくり企業から、製品・解析サービス・提携ネットワークを組み合わせた価値提供へ



毛髪解析サービス

非侵襲・郵送可能・時系列で可視化

ASDスクリーニング

2025年7月 サービス開始

環境曝露スクリーニング

毛髪中元素から評価/日本導入検討

ストレスマーカー検出

Nano-PALDI法 × ストレスマーカー物質

サービスとして提供

医療・
ヘルスケア
市場



血液バイオマーカー製品

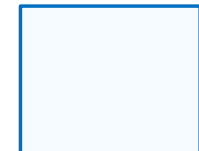
高感度デジタルELISAから簡易キットまで



KI-ZA-SHI

高感度デジタル
ELISA
測定装置
先行受注開始

pTau217



ELISA Kit

簡易ELISAキット
装置と合わせた
2製品構成

Mid-pTau181※

※大阪公立大学 徳田隆彦先生開発の世界最先端認知症マーカー

当社は「ものづくり」から、製品・サービスまで含めた新しいエコシステムを社会に提供し、医療とヘルスケア市場で世の中のお役に立てる企業を目指します。



4 ワイエイシイグループの展望

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長

百瀬 武文

～複数の成長ドライバーで描く、持続的な企業拡大～

2030年

1,000億円企業

M&A

医療ヘルスケア
ビジネス立上と
成長

量産新製品

既存事業の
成長

M&Aによる
グループの成長拡大



1. 既存事業の拡大
2. 量産新製品
3. 医療ビジネス
4. M&A

2030年

1,000億円企業

2027年度～2029年度中期経営計画（予）

2024年度～2026年度中期経営計画

～成長投資と資本効率を両立し、企業価値を持続的に向上～

$$\text{ROE} = \text{当期純利益率} \times \text{資産回転率} \times \text{財務レバレッジ}$$

当期利益率

粗利率の改善

高付加価値製品の開発

現場稼働率の適正管理

※売上成長に加え、利益の“質”を重視

総資産回転率

ファブレス経営

適正な在庫

不採算事業の見直し

※投下資本を回す経営へ

財務レバレッジ

自己資本比率50%を目標

※守りと攻めを両立

～医療ヘルスケア分野の三層成長戦略～

◆ 安定収益
 ◆ 成長オプション
 ◆ 将来価値
 を同時に育成する
 事業構造

事業領域	位置づけ	主な特徴	投資家視点の意義
人工透析装置	安定収益基盤	構造的需要、高信頼性、更新需要	キャッシュ創出力と業績の下支え
毛髪診断補助サービス	成長オプション	非侵襲性、時系列データ分析、新市場	中長期成長と事業拡張余地
バイオマーカー事業	将来の非連続成長	汎用的検出技術、プラットフォーム展開	長期的なオプション価値創出



5. 質疑応答

ご質問のある方は、挙手をお願いいたします
司会よりご指名後、ご発言をお願いいたします



シェアードリサーチ社による
当社の調査レポート(無料)
Research Coverage 



[https://sharedresearch.jp/
ja/companies/6298](https://sharedresearch.jp/ja/companies/6298)

さあ今日も、明るく、元気よく
ときめきと感動の日々であれ！

くまやか先端技術企業集団
 **ワイエイシーグループ**